

どちらの「らしさ」？

飯南町立頓原中学校 一年 丸山湖々菜

小学校の時から着ている制服。中学校に入るときに、私はスカートではなく、ズボンを選びました。私はズボンを選ぶのに迷いはありませんでした。もともと、スカートが好きではないので、私服ではスカートをはかないし、ズボンの方が動きやすいと思ったからです。

そんな制服について、私はインターネットで調べてみました。制服の必要性についてのアンケートを見てみると、いい点と悪い点が紹介されていました。いい点としては、毎日の服装を選ばなくていいので楽だという意見が多く、悪い点では、夏や冬に体温調節がしづらいという意見が多かったです。その他にも、制服がある方が服装による個人差がでなくて、平等であるという意見も多くあがっていました。

最近では、女子でもスカートではなく、ズボンを選べる学校も増えてきました。私もズボンをはいていますし、頓原中では他にも何人もズボンをはいています。ズボンだからといって誰かに何かを言われることはありません。でも、男子がスカートをはいているのは見たことがありません。女子がスカートとズボンのどちらもはけるのならば、男子だってスカートをはいてもいいわけです。でも、私は今まで、スカートをはいている男子に出会ったことがありません。なぜなのでしょう。

私は、他の学校でスカートをはいている人がいるのかを調べてみることにしました。すると、広島のある高校で、女性らしさ、男性らしさという「らしさ」に疑問をもち、スカートをはいて登校している男子生徒がいることがわかりました。その制服のスカートは、誕生日プレゼントとして両親に買ってもらったそうです。

その生徒がスカートをはくようになってから、自転車に乗っているときやコンビニなどで買い物をしているときに、周りの大人から、変な目で見られていると感じたそうです。私も、その場にいたら、ついつい見てしまうかもしれない。だって、珍しい光景だからです。

でも、その学校では、その生徒の存在や行動が他の生徒にも影響を与え、引っ込み思案だった人が、行事に積極的に参加して周りを盛り上げる人になったり、「自分もいろいろと自由にやってもいいんだ」という雰囲気が生まれて、新しい企画をやってみたいという生徒が増えたりした、という報告もありました。

他の高校では、男子生徒が一日中スカートをはいてみる、というイベントも開かれたようです。すると、普段スカートをはいている女子が想像以上に寒い思いをしていることにびっくりしたという感想が挙げられ、スカートをはいている人を気遣う気持ちが生徒の中で共有できたそうです。

男子がスカートをはいたりメイクをしたりしていると、そのことを変だと思う人はまだまだいるかもしれませんが、そのことを認め応援する人も増えてきています。

ところで、皆さんは、昔、中学校で学ぶ教科が、女子と男子で違っていたことを知ってい

ますか。女子は家庭科を学び技術を学ぶことはなく、男子はその逆で技術だけしか授業がなかったそうです。教科によっては、女子の授業、男子の授業がはっきりと分けられていました。それは、女子に必要なことは、料理や裁縫の知識や技術であり、男子に必要なことは、木材や電気の配線を学ぶことだったのです。今の授業の形になったのは、昭和六十年なのだそうです。

昭和六十年というと今から三十八年前ということになります。この三十八年間で社会は変わってきているということになります。

「女性らしさ」・「男性らしさ」が求められる社会がいいのか、「自分らしさ」を求めている社会がいいのか。どちらの「らしさ」が大切なのでしょう。そう思うと、制服のほかにも変えられるところはまだまだあるような気がします。